

広報・教育部門

応募事例名

あなたのデザインが実際のマンホールに！？首里城マンホールデザインコンテスト

応募団体名) 沖縄県

応募事例の概要

県民に下水道へ関心を持ってもらい、同時に、県外国外の観光客に対して、首里城再建の取組とともに広く下水道をPRすることを目的として、下水道の顔として親しみやすいマンホール蓋のデザインを公募によって決定し、実際に制作・設置しました。

沖縄県内外から126点のデザイン応募、下水道週間(9/7～9/11)に行われた一般人気投票では682人からの投票があり、多くの方に参加していただきました。

投票者からは「完成した首里城マンホールを見れるのを楽しみにしている」、「首里城再建を県内外にアピールできるよい取組だと思う」などの声があがり、マンホールや下水道に興味を持ってもらうことに加え、首里城の復興を県内外にPRすることができました。

実際に設置されたマンホール蓋



授賞式&お披露目式



・お披露目式とその後の設置作業は県内紙にて取り上げられただけではなく、ニュース番組にて首里城マンホールの製造から設置までの特集が組まれるなど、広報効果大
・設置後はSNSで発信する方も多く観光にも寄与

・世界に誇る首里城の美しさを沖縄らしい紅型スタイルでデザイン
・遠くからでも目立つ鮮やかな色合い

デザインをした川平氏(右)は「通りかかった人が写真を撮り、SNSで世界中に発信し、首里城復興に関心を持ってほしい」と想いを述べてくれました。

PRポイント

・新型コロナウイルスの影響で、マンホールスタンプラリー、浄化センターの見学会等の従来のイベントができない中でも、デザインの募集や人気投票にインターネットを活用し、県内外のたくさんの方に参加してもらうことができました。

・「デザインマンホール」と「首里城」を組み合わせることにより、マンホールや下水道に関心のない方からも注目されるイベントとなりました。

取組に関するエピソード

当初開催予定であったイベントはコロナウイルスの影響で断念せざるを得なくなったため、すべてがゼロからのスタートでした。コンテストに応募してくれる方はいるのか、マンホールの設置は実現できるのか、など不安はありましたが、SNSやHPを利用した積極的な周知や、関係者との協力によって、結果的には老若男女から多数の応募、投票があり、無事にマンホールを設置することができました。

今後は、マンホールカードの発行や首里城マンホールを活かしたイベントを開催することによって、沖縄県の下水道をPRしていきたいです。



沖縄県 下水道課主任(当時)
渡慶次 麻衣子